

アジアと女性解放

Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先・横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘112
県住公社147・五島昌子

300円

特集 韓国民主化闘争の女たち

証言と祈り 李 愚 貞

偉大なオモニ 金芝河の母

政治犯とその家族たち

ドキュメント 梨花女子大・紡織女工・東亜日報

処刑された夫を想う・妻の手記

在日韓国人 抑圧に抗して

植民地政策と日本女性 任 展 慧

アジアとの出会い方 鶴見良行

逐次刊行物

13.1.22

国立女性教育会館
女性教育情報センター



判決に抗議する民主救国宣言事件被告とその家族たち (1977. 3. 22)

1977
No. 1

女性差別・民族抑圧からの解放をめざして!

私たちは韓国の女たちの闘いを支持する

「かつて、中国、朝鮮半島をはじめアジアの国々で焼き、殺し、奪い、女たちを犯す侵略の尖兵となったのは、私たちの肉親であり、友や恋人でした。そして今、私たちはこれ以上夫や恋人を経済侵略、性侵略の尖兵として送り出す女たちであり続けることは拒否しようと思いません。この決意なしには私たち自身の解放は決して現実のものにならないでしょう……」——朝鮮の三・一独立運動に思いをはせながら、今年三月一日、「私たちの宣言——アジアと女性解放」(創刊準備号に掲載)をまとめた私たちは、アジアの女たちとつながる新しい女性解放運動を起こす決意を固めました。それは、日本のアジア侵略に女たちも加担してきたという歴史的責任を問いつつ、現在アジアで抑圧されている女たち、抵抗に立ち上がっている女たちと共にアジアの新しい未来を切り開きたいと願うからなのです。

梨花女子大宣言」と立ち上がりました。二人の息子が投獄されながらも「自分の子どもたちのことのみを思った罪を許して下さい。ひとりの子どもを自身の子どものように愛さなければ」と祈る母、夫を処刑されながら、「この悲しみが、民族の胸に刻み込まれたこの痛みが、すがすがしく晴れる日が必ず来ることを信じたい」と書き綴った妻。そして仁川の紡績工場の女性たちは苛酷な労働条件に抵抗してハンストに意識不明になるまで捨て身で闘い抜きました。いまや、韓国の女たちの闘いは草の根の女たちの間に着実に広がっているのです。

いま、韓国が私たちの心をとらえ、ゆさぶっています。この隣国との出会い方はさまざまでした。植民地朝鮮に生きたことの痛みを原点にしている者、在日朝鮮人差別の問題に取り組んできた者、韓国政治犯救援に関わってきた者、キーセン観光反対に立ち上がった者……。四年前の金大中拉致事件をきっかけに、それまで私たちに見えなかった韓国という国が見えてきたのでした。この事件で、私たちは朴独裁政権の恐るべき弾圧の実態を知り、そしてまたその弾圧に抗して果敢な民主化闘争をしている人たちがいることに目を開かれたからです。

それまでの、ただ差別され、しいたげられていた韓国人というイメージは変わりました。民主主義と民族解放の闘いに生命さえかけている韓国の学生、知識人、キリスト者の姿に、私たちはどれだけの魂をゆり動かされたことでしょうか。次々と起こる弾圧事件、KCIAの陰惨な監視の眼、身の毛もよだつ拷問、処刑……。それでもなお決して消えることのない抵抗の火花。それは、闇が深まれば深まるほど輝きを増し、玄海灘を越えて私たちに照らすのです。

このような民主化闘争の担い手は決して男たちだけではないことを私たちは少しずつ知りました。女子学生たちは「一族としての生存と自由と、人間としての最小限の権利すらも享有できないこの暗闇の祖国の現実をそのまま見るに忍びない」(一九七四・二〇・二一

痛み、その苦しみをもたらしている日本の権力者たちに激しい憤りを感じます。飢餓賃金で日本企業にこき使われている女子労働者たち、日本人観光客にキーセンとして体を売る若い娘たち……。そして農村の女たちは、金芝河の風刺劇「鎮悪鬼」でブニという少女が嘆いているように、韓国に生まれた不幸の上に、女として生まれた不幸に涙を流しているのです。

しかし、こうした二重の抑圧、差別に苦しみながら、涙をぬぐって立ち上がっている女たちに深く感動するのです。その不屈の生き方を一人でも多くの日本の女たちに知らせたい、海外の女たちにも伝えたい、そう考えて、私たちはこの特集を組むことにしました。それは私たち日本の女にとつては、日本の権力にもつと正面から立ち向かうべきだというきびしい問いかけであり、韓国と同じように抑圧と貧困に打ちひしがれたアジアを初め第三世界の女たちにとつては力強い励ましになると思います。そして欧米諸国(日本も)の女性解放運動に対しては、他国の女たちの飢餓の上に築かれた「豊かさ」を問わないのかという鋭い告発になるでしょう。

アジアの女たちの会

「アジアと女性解放」編集グループ

特集

韓国民主化闘争の女たち

法廷陳述

民主救国宣言事件被告 李愚貞

「私がこの春にソウル女子大をやめたのは『民主救国宣言』参加に関係があった。私は韓国女性を利用して外国観光客を誘引することに反対し、政府に訴え続けてきた。しかしKCIAは、韓国はドルを必要としているのにお前たちの運動は何百万ドルもの損害を与えていると非難してきた。道義を失った、わが国の政治はギャングに支配されてしまう。私たちは北朝鮮の人権否定にも反対するが、私たちの社会をドルのために売ることに反対する。」

私たちはまた在日韓国人の権利のためにも闘ってきたが、政府は日本の選挙を理由に、この運動を止めろと言った。私たちはとくに貧しい在日韓国人の問題に関わってきたが、政府はこれを自分たちの失敗を反映するものとみて、やめさせよう



李 愚貞 (イ・ウジョン)
韓国教会女性連合会長

とした。

政府は国民のために政治を行うのではなく、政権維持のために国民を利用している。私も暴力を加えられ、大学の職を辞めるように迫られた。これらのゆえに、私は『宣言』に加わったのである。

私は今日ほどひどい教育の自由の否定をかつて経験したことがない。教室からも教授会からも、あらゆることが当局に密告されている。自由に話せる場所はどこにもない。教師たちは密告を恐れて同僚も学生も信頼できない。その上学徒護国団がすべてを命令によって行うので、学生は機械的に動くだけで、創造的教育の機会とは全然ない状態である。このままではこの国はどうなることか。私たちは真の教育を回復しなければならぬ。これが、私が緊急措置の撤廃を要求した理由である。

「あなたの講義は反政府的と言われるが」との質問に、私は学生たちに、いつも政府のことを自分で考えかつ自分で評価を下すように教えてきたし、そのことは大学当局も認めてきた。問題は、私が語った内容よりも、それに対する監督や調査の方にある。また教師は事ごとに政府の命令に従うよう要求される。教師が自分の考えに従って語る自由は奪われている。

起訴状は私たちを反国家的というが、私は韓国の外ではつねに愛国者として発言してきた。外国にいたときよく北朝鮮と韓国の違いを聞かれたが、私はいつも韓国では少なくとも抗議することがで

韓国その激動の中で

女の銅像

日本の近代化は、まず朝鮮民族を従属させることから出発しました。そこから朝鮮民族の惨憺たる苦難の生活と、血みどろな抵抗の歴史がはじまりました。

一九一九年の三・一独立運動は、民族あげての抵抗のノロシであり、五万人が検挙され、一五〇九人が日本の弾圧の犠牲になりました。その闘いには多くの女たちも参加し、十六歳の少女、柳寛順(ユ・カンスン、梨花学堂学生)もその一人でした。日本官憲に逮捕され、拷問にあつて獄死した彼女は朝鮮の「ジャンヌ・ダルク」といわれ、いまも人びとの心に生き、ソウル市内には彼女の銅像が立っています。

日本で銅像といえば、権力者や侵略の功績者であつた男性であり、権力に立ち向つた女の銅像など立つはずありません。そんなところにも、権力への抵抗者が民衆に尊敬をもって迎えらるる朝鮮民族と、少数者として孤立させられる日本と、抵抗の歴史の違いを感じさせます。

民族分断の悲劇

一九四五年、日本の敗戦により朝鮮民族は三六年度の植民地支配から解放されました。しかし日本は、第十七方面軍と関東軍との境界線である三八度線でアメリカとソビエトが武装解除するといふ終戦処理を出し、それが戦後の米ソ対立の冷戦構造の南北分断の要因となつたのです。

一九四九年、中華人民共和国の成立。翌五〇年に始まる朝鮮戦争は、米ソ対立が熱い火を吹いた大國間の代理戦争の様相を呈します。日本を基地とした米軍爆撃機は、連日朝鮮半島空襲に飛び立ち、百万人の血が流れ、二十万人が家族と離散したその戦争を、日本では「朝鮮ブーム」とよび、隣国の不幸の上に今日の経済繁栄の基礎を築きあげたのです。

一方朝鮮戦争では、多くの女たちが夫や息子を失いました。たとえ夫が「北」で生きていたとしても、南北の壁は厚く、その消息すら確認できないまま、今もなお分断の悲劇を引きずっています。夫を失った妻たちは、強固な家族制度の下で男・

きるし批判することができる、と弁護してきた。今はこうして反政府的とされて裁かれているが。

私はキリスト教倫理を教えてきたが、私の講義や説教はすべてK C I Aの記録にもある通り、徹頭徹尾聖書的である。にもかかわらずそれが私に不利な材料として用いられている。社会に関することには触れてはならず、天国に行くこと以外を願ってはならない、といった調子である。これこそ信教の自由の否定ではないか。しかしキリスト者は、平和と愛と良心に基づく社会をつくる責任を放棄してはならないのである。宗教者は、何時も強盗の支配に陥らぬよう防がなければならない。」

(一九七六・七・三・第八回公判)

祈り

神よ、三・一事件の被告だけではなく、多くの民主学生、民主人士たち、そしてそのほかの多くの拘束者たち、私たちが一人一人名前をあげて祈ることのできない彼ら、良心的な確信から本当にこのみがこの国の行くべき道であると信じて叫び、そのために苦しんでいる多くの人々とあなたがともにいて下さるよう祈ります。彼らの努力と彼らの犠牲が決して空しいものに帰してしまわないようにして下さい。その実りを私たちがこの場で刈り取ることができなくとも、それが韓国の歴史の証言として残り、私たちの子孫に、より正しく、より住みよい国をもたらすことのできる一粒の麦になるよう、神よ、導いて下さい。

このすべての人々の犠牲と労苦が、永遠の実を結び、二度と緊急措置によって裁かれる人々がないうようにして下さい。二度と警察や情報部に連れられて良心にたがうことを自白するよう強要されることがないようにして下さい。二度と人間が一

民主救国宣言の妻たち

民主救国宣言事件の被告の夫人たちは、ここ一年間、縦横に機智を働かせて闘って来た。

「あの事件がなければ、夫の給料をどうやって切り盛りし、子どもたちの教育をどうするかの方に頭を使っていたかもしれません。でも、今私は多くのことを学びました」とある夫人は語ったという。

起訴が公表されて一週間。三月十八日、拘束者の夫人たち十数人は、安炳茂教授の留守宅で祈祷会を開き、民主主義の勝利を祈った。

四月十八日、復活節の夜明け、「み墓をいできみはよみがえりぬ」との夫人たちの讃美歌は西大門拘留所の裏山から、獄の中へも届いたという。

五月四日、第一回公判、傍聴者への厳しい制限に抗議して傍聴を拒否した家族たちは、外で坐りこみ、ハンドバッグにしのばせてきた黒いテープを自分たちの口に貼りつけて、「言論の死」を示しつつ、機動隊に対峙した。十五日、第二回の公判では

個の商品として売り払われるような人権蹂躪がないようにして下さい。二度と言論人が自分の良心に従って、見たり聞いたりしたことをそのまま報道することのできない悲劇が起こらないようにして下さい。

父なる神よ——二度と次の世代を教える教授が、自分の信ずるところを講義できずに大学から追われることがないようにして下さい。二度と信仰の良心に従って、正しいことと正しくないことを証しする牧師たちを監視し、連行し、又投獄し、警察において訊問を受けることがないように、神よ、祝福して下さい。

二度と若い学生たちが命令と服従によつてのみ動き、彼らの創意が失われ、彼らがこの国のために自分の才能を生かし、創意を生かして、心からの決断によつてこの国に奉仕しようとする芽を踏みにじり、それを枯らしてしまうことがないようにして下さい。われらの若い人々が自由に語り、自由に討論して自分の信ずるところに従って決断し、自分の信ずるところに従ってこの国に仕えることのできる雄々しい人々に育つようにして下さい。また国会議員は良心に従って政府の間違ひを批判し、正しいことを提言できるようにして下さい。判事は自分の良心に従って裁き、一人として罪なき人に罪を着せるようなことが二度とこの地において繰り返されないようにして下さい。

父なる神よ——これらの多くの民主人士の切なる願いが実つて、この地に本当に嘆くべきことなく、無実の罪で慟哭する母がなく、無実を訴えながら互いにいたわり助けあつて、この地に神の国を実現しうるよう力を与えて下さい。

(一九七六・八・二七・拘束者のための祈祷会)

夫人たちは傍聴券を路上に焼きすてて抗議した。

続く公判の日ごとに、ある時は夫人たちはむくげの色のそりのチマ・チョゴリによそおつて、「民主回復」「裁判公開」と記したうちわを片手にデモをし、ある時は「民主回復」と記した日傘をいっせいにさつと初夏の日ざしの下にひろげるなど、優雅な戦術で対抗。ただし、護送車に家族たちを放りこんだ警察側は容赦なかった。文益煥牧師夫人は、護送車の窓から身をのり出して、なお民主回復を叫んだ。

夏、夫人たちと被告の李愚貞女史は衣替え。獄衣を象徴するワンピースのユニホームの胸に、それぞれ夫人の四人番号をぬいつけた姿で勢揃いした。胸には十字架を形どった手製のペンダントがゆれる。この頃から夫人たちは、編目のひとめひとめ思いをこめて、民主回復の四目ずつをVの字になげた、紫のショール——ヴィクトリー・ショールを編みはじめた。連帯のしるしのショール作りは世界にひろがる。三月、大法院判決の後、街頭で「ウィ・シャル・オーバーカム」を歌う李愚貞被告や夫人たちの肩にも、紫のショールがあつた。



姑に仕え、生活を背負い、儒教思想の中で「貞婦二夫にまみえず」の教えに従われ、再婚もせずその人生を終える——ここには日本の戦争未亡人以上の苛酷な女の一生があります。

一九六〇年、李承晩独裁政権を倒した四・一九革命は、朝鮮民族に春を告げる解放の闘いでありました。その勝利により、民族の悲願である南北統一は現実のものとなるかのような光が見え始めたのです。だが翌六一年、希望は打ち砕かれました。四・一九革命を受け継ぐかに見せかけた朴正熙の軍事クーデターにより、李承晩時代よりもさらに残酷な独裁体制がしかれました。その政権を支援したのは、アメリカの武器と日本の経済でありました。六五年の日韓条約により、日本企業が大量進出しはじめ、韓国は日本の新たな経済植民地と化してゆきました。

圧政に抗して

日本で万博が開かれた七〇年、異民族の経済侵略をゆるした権力者たちの腐敗に対して、若き詩人、金芝河が長篇詩「五賊」で痛烈な政治諷刺を行って逮捕され、それ以来、彼の命をかけた闘いが始まります。

七一年、朴正熙は不正選挙により三選し、終身大統領制を固めますが、それに対して起つてきた反朴運動への見せしめとして、在日朝鮮人留学生、徐勝、俊植兄弟を「北のスパイ」として逮捕、あいつく留学生のスパイ事件が起つてきます。

七二年、反朴運動の世論に押され朴政権は「七・四共同声明」を発表し、南北統一への対話のポーズを示しつつ、一方で愛国者三名を死刑にする暴挙にでました。翌七三年には、日本に亡命中の金大中大統領候補を拉致——朴政権は韓国と日本国内たるとを問わず、K C I Aによる暗躍を公然と行いますが、その不法行為に対して日本政府は、暗黙の合意を示してまいりました。

こうした暴挙に抗し、民主人士、宗教者、ジャーナリストも「時局宣言」を通じて民族の運命を問うかけ、「改憲請願百万人署名運動」をおこしますが、それは燎原の火のように燃えひろがり、わずかの間に四十万人にも達しました。

七四年四月、学生たちも「民衆民族・民主宣言」を採決決議したとき、大弾圧——いわゆる「民青学連事件」により、金芝河や日本人学生二名を含む四五名が逮捕投獄されたのです。獄中で金芝河は

「人民革命党」とよばれる被告に会い、それがデッチあげであることを確かめました。

七五年二月、「人革党」関係者をのぞく政治犯が釈放され、金芝河も出獄します。彼は「人革党」がデッチあげであることを告発した獄中記「苦行一九七四」をかつて「東亜日報」に発表。たちまち逮捕され、金芝河はいまも獄中にあります。

四月九日「人革党」八名の処刑。遺族はその亡骸に別れを告げることも許されず、辛うじてそれをかいま見た人は、その遺体が顔の見分けもつかぬほど傷つけられ、その指を切りとられたと言います。(参照⑬頁に「人革党」妻の手記)

その同じ日、日本政府は二三億の借款援助を与え、朴政権の強化に手を貸しています。

だが三・一独立運動の抵抗の歴史を持つ韓国の良心たちは、激しい弾圧の中でもひくく聖堂での祈祷会の席上「民主救国宣言」が発表されました。

民主主義の基盤に立たねばならない。経済立国の構想と姿勢を根本的に再検討すべきである。民族の統一を願う——これらの要求をかかげた宣言文の署名者は、金大中、尹潽善前大統領、韓国のガンジーといわれる咸錫憲、李愚貞女史ら、代表的な人びとですが、朴政権はその宣言を「国家転覆」の陰謀とみて逮捕——現在に至っています。

こうした中できわ立つた闘いを始めたのが「民主救国宣言」の妻たちや、あるいは息子を奪われた金芝河の母の闘いでしょう。

生れ出する苦しみ

戦後の米ソ対立の冷戦構造は、朝鮮半島の上はまだ凍りついていたのです。かつて日帝三六年間の圧政と、朝鮮戦争で流れた血と、民族分断の悲劇と、独裁政権下の弾圧と、その煉獄をくぐりながら、しかし新しい解放の思想は、この苦境の中ではぐくまれているように思えます。

帝国主義の植民地支配とそれに抗する民族自立と、マルクス主義とキリスト教と——それら世界史の課題が、朝鮮民族の慟哭の中に宿されています。その生れ出するための陣痛の中から、民主主義への希求、解放への叫び「アテネの春」をよぶ声と「プラハの春」をよぶ声が、私たちの胸に深い共感をよびながら聞こえてくるのです。その陣痛の疼きの中に、女性解放の種子を私たちは確かめるのです。



東亜日報の家族たち

ドキュメント

女は

たたかっている

大学で・工場で・言論で

①梨花女子大の闘い ②仁川繊維女子

労働者の闘い ③東亜日報の闘い



連行される梨花女子大生

ドキュメント① 梨花女子大の闘い

それでも、私たちはやめない

一九七三年の一月にソウル大学で正義と自由の烽火があがった。

この一月二日のデモで四十一名の学生が処分を受け二〇名が拘束され実刑の宣告を受けた。ソウル大のデモは学園と言論の自由を叫び、独裁政権の退陣を要求し、民衆の生存権の保障と不正腐敗の掃蕩を叫んだものであった。学生たちが逮捕されるや、そのことはまた「拘束学生を釈放せよ」という要求を伴って全国の大学に広まっていった。連日のデモ、相ついで連行拘束、ついに学校は政府の指示によって休講、休学の措置をとらざるをえなかった。梨花女子大総学生会は、大学祭の行事を廃し、拘束学生釈放と民主回復のために黒いリボンと左の胸の上につける運動を展開した。八千梨花人はこの運動に積極的に参加することによって全体の決意を確かめた。

総学生会は弱腰であった。左の胸の上のリボンをとるようにとの当局の圧力に屈してしまつた。学校の門前ではCIAと大学の学生課職員が学生のリボンをはずさるために全力を尽した。この時、多くの学生たちは無気力な総学生会会長団に憤慨した。それはあまりにも消極的な社会参加であった。そのため、かつて全学生たちの気運は七三年一月二八日、四〇〇〇名の祈祷会を催すまでに盛り上つた。それは美しい祖国のために徹夜して祈ろうという集まりであった。牧師先生の祈りでチャペルが終りに近づいた時であった。一人の学生がマイクの前に走り出た。尊敬する先生方、そして八〇〇〇の学友よ」とこの学生は語り出した。彼女はわれらの祖国の現実を告発した。われらの隣りの学校、そして学生たちがどのような苦しみを受けているかを訴えた。間違つた政治、民衆の惨憺たる現実を告発した。「八〇〇〇〇の学友たちよ。救国の隊列に参加しましょう」と結んだ。それは学生

あることをCIAと市民に印象づけた。梨花の学生たちにとっては運動に対する勇気と信念を植えつける契機になった。そして二月三日以後、梨花女子大も休校措置にあり、冬眠状態に入らざるをえなかった。

一九七四年一月八日維新憲法五三案によって緊急措置第一号が宣布された。七四年、梨花女子大は七回にわたって声討大会を開いた。このため二名の学生が三ヶ月以上拘束され、執行猶子で釈放された。一名の学生は九ヶ月にわたる長期間身をかくしてなければならなかった。一五名が調査を受け、その中で六名は不拘束立件になった。七五年の春この不拘束立件は解除された。七四年の一年の間に運動に動員された梨花女子大の学生は延べ一五、〇〇〇名に達し、××名の学生リーダーが生まれた。

七四年、デモの頻度数が多くなるにつれて、いくつもの憂うべき現象が起きた。運動を続ける間に多くのリーダーが露出して活動が難しくなった。示威行動は常に校門の前では機動警察によって、学校内では学校当局によって阻止された。このようなことがくり返して行なわれる間に、学生の間には挫折感が拡大していった。

しかし、これは敗北感のために表面化したものであって、その下には憤りが秘められていたとみるべきである。その現われが、七四年一月から東亜日報の広告弾圧に向けられた梨花女子大の学生と教授たちの熱烈な支援であった。この時もつと多くの激励広告を出し、もつとも多くの金額を募金したのが梨花女子大であることは、自他ともに認めるところである。そして七五年二月に「民青学連」関連者の釈放が決定されたのは、七四年の戦いもたらしたものである。

一九七五年の冬（一、二月）にはおもに東亜日報支援運動に参加した。七三年以後の戦いにおいて多くの大

の中から自発的に湧き上つた声であった。この間すでに決議文章案四〇〇〇部の配布が終つていた。それはゲリラ戦法ともいうべきものであった。愛国歌をいっしょに歌って「拘束学生を釈放せよ」「言論自由を保障せよ」「情報ファシズム政治を撤廃せよ」「維新憲法を撤廃せよ」「学園の自由を保障せよ」等のプラカードが広げられ、街頭デモに入った。

いつしか校門が開かれ、五〇〇メートル地点まで進出した。しかし間もなく出動した機動警察に阻まれて長時間の籠城体制に入らざるをえなかった。機動警察は前後を包囲してこしようにガスを続けざまに発射した。学生たちは催涙弾のために涙を流しながら決議文を朗読しスローガンを叫び、讃美歌や愛国歌、そして校歌を歌い続けた。

総長が先頭に立つて解散することを勧めたが、学生たちは聞き入れなかった。周囲が暗くなつてきた。学生たちは警察に襲われ多くの人が逮捕連行されてはと思つて全員校内の大講堂に入った。こうして四〇〇〇名の学生が徹夜祈祷会に突入したのであった。この祈祷会の消息がラジオで伝えられるとその日のチャペルに参加していなかった学生たちもやって来て、講堂は満員になった。これは偉大なる感動の一致であった。この感動は、この学校の歴史に誇りある重きとして残り、常にある種の衝撃を与えるものになるであろう。総長、教授、学生が一つになつて決意を一つにしたのであった。この時から総学生会の方が進行を担当してはか大学の決議文などを朗読した。これはほかの大学との連帯を確認するためのものであった。金冠のイエス、われらは勝利するであろう」や讃美歌を歌いながら意気を鼓舞しつづけた。教授たちはパンとコーヒで学生たちを激励した。寮からは麦茶が運

学が犠牲者を出したが、梨花大にはまだ犠牲になつた学生がいなかった。しかし七五年の春になると、七四年に猛活動をしたキム・ソンヌク（新聞放送学科四年）嬢がはじめて退学処分を受けた。五日には緊急措置第九号が発動されて、学生の運動はほとんど表面にあらわれないようになつた。七三年以来主動的な役割りをなしてきた学生たちが

社会の冷遇と無視、そして企業主の虐待の中で、人間らしい暮らしを求めて泣き叫ぶ、貧しい労働者たちの血を吐くような慟哭に耳を傾けて下さい。この社会に真に自由と平等が共にあることを望む国民は、理非を見分け、人間らしい権利を求めて身もたえする私たちの孤独な闘いに拍手を送り、貧しい労働者たちを踏みつけ、裏切り、欺き、無知だと蔑む彼らにきびしい批判の喊声をおこして下さい。

ドキュメント② 仁川繊維女子労働者の闘い

貧しい労働者たちの慟哭

私たちが一年前、労働組合の代議員選挙の折、御用労組にしようとする会社側の策略にかかり、深い苦痛を受けた仁川、東一紡織の労働者です。私たちは隣の人と目くばせもろくに出来ず、食事もまともに出来ず、手洗いに自由に行けない不自由な息の詰まる現場生活をしています。また、退勤後われわれの向上のために設けたクラブ活動もままにさせずに、私生活まで干渉する会社の「弾圧、肺結核、水虫、胃腸病などにさいなまれねばならない黄色くむくんだ女工たちの顔、四十度にも昇る工場内の温度とほこり、監視とく促ばかりの監督者たちの恐ろしい目つき、組合活動に熱心な人たちに

投獄されたり連行されたり家宅搜索を受けた。ある意味では受難の時とはかえって運動の主体勢力が成熟するための季節であるといえよう。彼らは絶望してはいない。その逆にそれほど苛酷な道であることはあらかじめ覚悟している。強くこの困難を戦い抜かねばならない。祖国の民主回復と人権の勝利のための戦いは決して停止することはない。

対する弾圧などなど、悲惨な生活を抜けたそうと努力してきました。七二年度、会社側のあらゆる妨害工作をはねのけ、わが国で初の女性支部長と執行部を構成し、労働者のための真の労働組合だと自負してきました。七五年度にも大多数の勤労者の支持を受けた女性支部長を誕生させました。しかし、七六年度には、あらゆる手段と弾圧で会社は代議員選挙に介入し、脅迫、懲戒をくり返しました。

反組織者たちをかり集め、会社が直接、代議員の息のかかった役員を推薦して大会を流産させたり、反組織の代議員たちを支持するというサインを仕事の中に強制したりするかとすると、熱心な組合員や代議員に対してきつなこともケチをつけ、出勤停止、部署移動、座席の変更、運搬工などをさせて苦痛を与え、自ら辞表を出さねばならぬようにしむけるのです。

組合の大会の前日は反組織者たちと





女性と人権

三月二十二日、民主救国宣言事件の判決により、有罪（懲役三年・但し刑の執行停止中）の判決を受けた李兌栄（イ・テヨン）女史は、即日弁護士資格を剥奪された。これによって、韓国は唯一の女性弁護士を失った形となっている。自分には、家庭法律相談所への責任と女性会館設立の仕事が残されていると考えたので、宣言には署名しなかったと語っている李女史であるが、夫の鄭一亨氏を助けて署名を集めたことが罪に問われたものである。一九七五年度のマグサイサイ賞を社会指導部門で受賞した李女史は、当時、東亜日報のインタビュに答えて「この賞は私に与えられたのではなく、韓国の女性指導者たちすべてに与えられたものと、意味深く

頂きます」と語った。弁護士としての李女史は、一九五六年私財を投じて「家庭法律相談所」を開設、離婚をはじめ各種の相談を通して、苦しんでいる女性の重荷をとり除き、意識をめざめさせることに尽して来た。創立当初は、年間二百五十件程の人々の相談に応じたというこの相談所も、一九七四―五年には、八千七百をこえる件数を扱うようになり、女史を所長に、法学部出身の八人の女性たちが相談の受け手として働いている。今、この相談所を含む女性会館を、ソウルの如汝島に建てるのが女史の夢なのだという。

もうひとつの、李女史の悲願は、「家族法の改正」である。現行の韓国家族法には――註・そこには日本の旧民法の影響が残っているのではないかと考えられるが――戸主制度、同姓同本者の結婚禁止、遺産相続上の不平等など多くの問題点があり、これの改正を要求する声は、早くからあげられていたが、一九七三年には「汎女性家族法改正促進会」が結成され、女性団体すべてを網羅する形に運動がひろがっている。李女史はこの運動の重要な担い手であり、弁護士としては、女性のための弁論のみならず民主回復運動で逮捕された教会指導者の救援などに活躍した。韓国の月刊誌「対話」七七年二月号の黄信徳女史との対談「人間回復のための女性運動」の一部から女史の女権運動における立場を紹介しよう。

男女差別問題の現況について

女性の地位、あるいは、女性の権利の伸長は男女差別という視角で男性を基準とし、男性との比較に止まるのでなく、そのような範囲をこえて、

処刑された夫を想う

姜 順姫

一九七五年四月九日「人民革命党」八名の人が裁判もろくに行われぬまま、突如処刑された。その中のひとり禹洪善氏の妻、姜順姫さんがつづるあまりにも大きな悲しみと慟哭の記である。

ます。しかし、これらの言葉も、自分の努力も、うつろな胸の中を満たしてはくれません。……

最後に／彼を見たのは／黒い 鉄の扉の／すき間からであった。／荒縄で／全身をしばられ／生捕られた けものように／彼は 看守どもに囲まれ／庭を 横ぎって歩いた。／れんぎょうが 咲き乱れた／刑務所の庭を。必死に／私は呼びかけた。／のどを潤らし／末の子の名を 呼びながら。タンピヤ、タンピヤと。

看守たちと／泣いて／争いながら／哀願しながら／しめつけられる思いで／眼が痛くなるまで見つめつけた／あの鉄の扉のすき間、あの鉄の扉のすき間。

今朝、目をさましたあなたの幼い子らが、ため息をつき、黙したまま、涙を流しているのを見ました。子らは、どれほど、どれほど胸の痛い思いをしているのでしょうか。あの子らの悲しみとてわたしの悲しみにおとることがありましようか。わたしは自分の悲しみにのみ気をとられ、幼子らの悲しみを思う、心のゆとりがありませんでした。すまなかったと思います。あなたにもお詫び申上げなくてはなりません。あの子らの悲しみを何とかして癒してあげたいと思っています。

神が助けてくださると、すべての人びとが嘆き悲しんでいると、このむごい仕打ち、許されないと、力をとり戻し、子供たちの将来を考えよと、民族のため、この尊い犠牲を誇らしく思えと――そのように、多くの方々がおっしゃってくださいしております。そのように思いたいとつとめており

一九七五年四月十八日

人間が本来もつ尊厳性を回復することを究極の目標にしなければと思います。

過去にあったような、女性は人間にあらずといった式の考え方は、現在、ほとんどなくなったでしょうが、まだ、生活の現実や制度的側面では、女性の権利がいかにげんに扱われている場合が、相当多く残っています。……男女差別としての人間差別がたたくさん残っていて、女性の人権問題がまだ解決されていないということはもちろんですが、特にもうひとつ高い次元で考えると、男女を問わず、人権回復あるいは人間回復という視点が必要です。

独立運動は国家と国家の間の不平等を、また女性運動は男女の不平等を、そして教育は、知識をもつ者と知識をもたない者の間の差別をなくし、究極的に、人間の生れながら持っている人間としての価値を回復しようということだといえましよう。……この観点に立つてみると、今日、果してあらゆる人間が、人間の本来の価値を発揮しているかといえ、そうとはいえない状態です。

元来、人間が、国家と民族の暮らしをよりよくするため、政府を作り、それに権力を与えるといった形で手段としての制度を形造つたのに、今は制度が人のためにあるのではなく、人が制度のためにあるような感になっています。……人間としての価値が不当に安く取り扱われたり、この人の価値は高く、この人の価値は低いといった形での差別――即ち、持てる者と持たざる者、権力者と支配者、男と女の両極化の現象は見すごすことのできないものがあります。こうした意味で女権運動もまた、人権運動として扱われねばならないと思うのです。

「具よ 具よ 父親は無実だぞ／血のにじむあなたの 最後の言葉／具よ 二人の幼子に、今朝 伝えました／しっかりと しっかりと、二人の手を握って。子らに 諭しました／誇り高く生きるよう……」

最初、あなたを殺すと言ったとき、わたしはあなたに向って泣き叫びました。あなたは身振りわたしをなだめながら、大丈夫だ、大丈夫だと、ほほ笑みをよこしてくださいました。

二度目、あなたを殺すと言ったとき、わたしは泣きませんでした。血の気のない顔で振りかえるあなたに、わたしを信じなさいと、胸を叩いて見せながら、はげましを送りました。……

三度目、あの十三匹の悪魔が、ひねりつぶして殺す値さえない、老いばれの、あの十三匹の悪魔どもが、あなたを殺すと言ったとき、わたしは驚愕の悲鳴をあげました。ずたずたにちぎれるまで手にしたバラソルで法廷のベンチを叩きつけました。「助けてください、助けてください、見物だけしないで、助けてください」と、声の限り叫びました。（世界一九七五・七月号）



処刑の報をきく被告の妻

民族の誇りを

子供たちにひきつぐよう

孫順伊（崔哲教夫人）

私の夫は、一九七四年の四月に祖国にいる親兄弟の生活援助のために帰国したところ、KCIA（韓国陸軍保安司令部）によって「スパイ」にデッチ上げられ、一、二審では死刑の判決、昨年五月二七日の最終審では死刑策動を一切秘密にしておりました。二審後、このままでは夫の命が闇に葬られてしまうことを悟り、五人の子どもたちと一緒にハンスドで夫のことを公表し、日本の世論に訴えました。そして皆様

の力強い支援を得ました。死刑が確定された後、夫の獄中より手紙が私のもとに届けられました。その中で、日本の皆様の支援運動に対する感謝を伝えるように、それから支援運動を強力に推し進め、このことが韓国の民主化闘争と平和的統一運動の一環となることを望んでおります。私



孫順伊さん

不当逮捕者家族の叫び

白媛子（白玉光氏の姉）

あなたは、いったこともない「北」に行ったとされあなたが会った人びとは指令を与えたり与えられたりした人となり街を歩き人と話したことがスパイ活動をしたことになりああ あなたは魔術師にされているのですそして一九七六年四月三十日二十八歳の玉光、ほほえみを忘れなかつたあなた努力家だった若くみずみずしいあなたに鉛のように重く、にぶく無気味に死の宣告が死刑判決が、玉光を知るすべての人びと玉光を知らないすべての人びともこの無力な姉のしかし、精一杯のさけびをどうか聴いて下さい

抑圧に抗して

助けて下さい 大切な弟を助けて下さい 若いあまりに若い弟を助けて下さい 何もしてやれない無力な姉をああ どうか助けて下さい 朝が来なければ眠れない 衰弱きつた老母を

な、助けを求めるような、そんなまなざしでじつとわたしたちを見つめていました。彼女は終止無言でした。しかし、あのまなざしは確かに悲痛な叫びがこめられていました。わたしは、おのがいのちと志を奪おうとする不条理な力で必死で抗おうとする、その叫びをしっかりと聞きとり、それをこの国の人々の耳に、魂の底に届けたいと思います。生きんとする意志をもつ者であるかぎり、彼女の言葉にならない叫びがわかるはずで、彼女のうめきを自分のうめきとしつつ、どうか彼女を救うために力をかして下さい。

「再会」1号（金五子さんを救う会）より

日本女性と連帯して

大韓婦人会東京本部 梁灵芝

アジアの女たちの会の創刊号に、韓国の民主化運動における婦人達の闘いの特集にくんでくださったことに感謝いたします。

今韓国では、暴悪な朴独裁政権によって、夫を殺され、あるいは獄に繋がれた妻たちが、子供を抱えて働く職場もなく、生活苦と闘いながらも、韓国の民主回復を願って法廷闘争支援をくりひろげ、拘束者と共に闘っています。

民主救国宣言一周年を迎えた今、知識人中心の運動が韓国国民の心を占める労働者までに広がっています。労働者人権宣言の発端になった韓国女性労働者たちのめざましい決起は、私たちの心をゆり動かしました。人間としての生きる権利そして、女としての差別されてきた苦しみ訴えています。彼女たちのめざましいのは、民主回復の中できつと成就されるでしょう。

今年の四月に発表された民主救国憲章には民主主義と民族の自主性、民族の統一のために、反朴国民連合戦線に結集することを、各界各層の全民衆に呼びかけております。私たちはこの呼びかけに答えながら、さらに日本の皆様と共に韓国の民主化をめざしてゆき

ことです。最後に、夫と同じく鉄鎖につながれている詩人。金芝河さんの言葉は、いつも私たちに希望を与えて下さいます。「私を悲しいままにしないで下さい。すぐ会うことになるだろうから」

祖国

崔然淑（服役中）

祖国、なんと暖かい言葉だろう。それはなんと優しい響きをもっているのだろう。祖国、そうつぶやく時だれかが私を遠くから暖かい目で見守ってくれているようなそんなやすらぎ、安心感が私をわらかくとりまく。見たこともない祖国。でもそれを思う私の心は遠く離れた見知らぬ土地へと向かっている。静かな山の連なり、広々とした大地、緑の田や畑、白い衣裳を着た人々……。実際郷愁に似た感情でそんな光景が浮んでくる。（早稲田大学韓国文化研究会機関誌より）

悲痛なまなざし

金五子さん（無期懲役）

四月三〇日、ソウルは雨でした。その雨の中を、五子さんは中庭を横切つて、大法廷に入廷しました。お母さんと一緒にわたしたちは彼女の名を呼びました。

金五子、崔然淑、白玉光の三氏人七五年のいわゆる「十一・一二学園スパイ事件」の在日韓国人母国留学生。

（在日韓国青年同盟） 金好子

三・一民主救国宣言の精神は、民主救国憲章の支持運動として、国内外に広がり、良心犯家族協議会も、行動綱領を発表し、力づよい闘いの火ぶたを切りました。屈辱的にも、金大中先生は、丸坊主になされ、ソウルから地方に分散移監されています。

日本にいる私たちは、海外同胞の人々と力をあわせ、国内同胞と共に、民主救国憲章支持署名運動を、展開してゆく決意です。

このような状況の中での「アジアの女性解放」による、（韓国の民主化闘争における婦人たちの闘い）の画期的なとりくみは、民主回復を推し勧める婦人たちと、多くの人々を、限りなくはげまし続けるでしょう。

我国の歴史をみると、苦難と栄光にみちた愛国運動を、女性たちも共に担い、闘いの中で、初めて蹂躪された社会的地位を高め、変遷させてきました。今、朴独裁の維新体制と、日本の経済侵略で、集中的に抑圧されてきた、韓国の女性労働者たちが、労働者宣言発表の主力になったように、民主化闘争の主体として、台頭しました。これらの悲惨な女子労働者たちの主体形成は、民主化闘争の、勝利を示しています。私たちも共に、最後まで頑張りつづけましょう。



連行される金五子さん

裁判長が判決文の朗読を始めましたが、声が小さくてほとんど聞きとれません。いちばん近くにいた記者たちも身をのり出しています。一瞬、五子さんがうなだれました。そして、手錠をかけられた手を胸の前に合わせるようにしました。それが死刑判決の瞬間でした。実にあつけない命を奪う決定が下されたのでした。

泣き崩れるお母さんを励まししながら、もう一度声をかける機会を待っている、と、やがて出口に乗用車が横づけられ、係官にかかえられるようにして控えの建物から出て来た五子さんがそれに乗せられました。必死で名前を呼ぶと彼女は初めて目を上げ、わたしたちを見ました。「弁護士に控訴を依頼した」と言ううちに、車は動き出しました。後を追って走りながら、大声で「オジャノ希望を失うな」と呼びました。彼女はふりかえつたまま、放心したよう

KCIAの性拷問を

うけた権末子さん

五〇年二月三日。私たちは、女性の人権と尊厳をふみにじる犯罪がまたもKCIA（韓国中央情報部）の手で行われたことを知った。日本で生れ育ち、母国のソウル教育大学に留学していた在日韓国人二世の権末子（クォンマルチャ）さん（二六歳）が、衆議院第二議員会館で記者会見、KCIAの性的な辱しめを受けて、虚偽の自白を強要され、事実無根の「学園浸透スパイ団事件」のでつち上げに利用された」と涙ながらに告発。手記を発表したのだ。

ソウル留学中のある夏の日、見知らぬ男が突然、下宿を訪れ、KCIAの身分証明書を見せて、権さんを連行した。夜通しの拷問と尋問。夢遊病者のようになつた彼女を、男は脅した。「韓国に留学中の友達と、政治的活動をした陳述書を書け」――釈放の後、男は権さんを辱しめ、「学徒護国団に参加して、維新体制のために奉公する」との誓約書をとった。今後、「生活、卒業後の就職は一切保証する」とも。

教育者になる望みを捨て、傷ついて日本に帰った権さんは、一月二二日、「スパイ団事件」の逮捕者に、自分の供述した友人の名前を発見。自責の念から、生涯の重荷を背負うことを覚悟で、名乗り出た。

たった一人で権力に立向い、民族の、女性の権利が完全に保障された社会を築き上げなければ……という権さんの勇気に、私たちは感動した。（権末子さんの記者会見に参加して）

表 (2)

學 校 別	學 生 数			同 上 百 分 率	
	朝 鮮 人	日 本 人	計	朝 鮮 人	日 本 人
大 學 { 法 文 學 部 醫 學 計	113 97 210	154 307 461	267 404 671	42.33 % 24.01 31.30	57.67 % 75.99 68.70
大學豫科 { 文 理 科 計	63 49 112	92 105 197	155 154 309	40.65 31.82 36.25	59.35 68.18 63.75
專門學校 { 京城法學專門學校 京城醫學專門學校 京城高等工業學校 水原高等農林學校 京城高等商業學校 京邱醫學專門學校 大平壤醫學專門學校 京城齒科醫學專門學校 京城藥學專門學校 計	143 76 49 49 58 79 120 100 81 750	48 256 147 144 231 194 174 369 199 1,762	189 332 196 193 289 273 294 469 280 2,512	74.61 22.90 25.00 25.39 20.07 28.94 40.81 21.33 28.93 29.85	25.39 77.10 75.00 74.61 79.93 71.06 59.18 78.67 71.07 70.15

表 (3) (1939年)

女 學 校 種 別		學 校 數	學 級 數	生 徒 数	
				日 本 人	朝 鮮 人
中等教育	公 立 女 學 校	59	441	14,350	9,044
	私 立 女 學 校	12	107	989	5,269
師範教育	公 州 女 子 師 範 學 校	1	13	364	321
	京 城 女 子 師 範 學 校	1	17	479	430
專門教育	私立梨花女子專門學校	1	19	1	527
	私立京城女子醫學專門學校	1	5	159	235
	私立淑明女子專門學校	1	8	92	195

表 (4) 日本留學生 在學學部別表 (大學別專門學校以上1930年度(昭和5年)末 現在)

部別 區別	法學部	文學部	醫學部	工學部	理學部	農 林 部	經 濟 部	商學部	水産部	藥學部	高等師 範 部	音樂科	美術科	家政科	計
東京	590	287	31	40	38	93	262	174	4	2	49	7	31	—	1,608
	8	14	43	—	3	6	9	3	—	1	16	7	11	27	148
地方	598	301	74	40	41	99	271	177	4	3	65	14	42	27	1,756
	69	125	25	18	39	42	19	38	3	1	15	—	—	—	394
合 計	69	7	—	—	—	—	—	—	—	—	15	—	—	3	25
	69	132	25	18	39	42	19	38	3	1	30	—	—	3	419
合 計	667	433	99	58	80	141	290	215	7	4	95	14	41	30	2,175

〔備考〕昭和7年 東京留學生 監督部調査による。

表 (5) 朝鮮の學歷別人口 (1944年 5月 現在)

學 校 別	男	女	合 計
大專	7,272	102	7,374
學 門	18,555	3,509	22,064
卒 卒	162,111	37,531	199,642
等 卒	40,702	9,240	49,942
高 卒	1,281,490	355,552	1,637,042
初 卒	190,250	64,555	254,805
退 修	864,308	115,814	980,122
簡 易 學 者	8,430,940	11,211,835	19,642,775

日韓女性セミナー講演

1976年6月

植民地政策と日本人女性

任 展 慧 (日本文学研究者)

日本のとつた教育政策

今日は朝鮮において「皇国女性」づくりをしてきた津田節子という日本人女性に焦点をあてながら、植民地政策に荷担した日本人女性の問題を考えていくことにします。そのまゝに「皇国女性」づくりの対象とされた朝鮮の女性たちが、どのような環境におかれていたかを、植民地の教育行政面からみておきたいと思っています。

一九一〇年八月の「韓日併合」に先立って、日本は一八七六年に江華島条約の締結を朝鮮に強制し、この条約以降、各方面にわたって植民地下への布石をすすめていきます。教育面においても「韓日併合」の際に活躍することになった売国奴李完用が学部大臣に登用され、日本人が次官になるという形で、植民地政策が行なわれていきます。その根本は、朝鮮人民の愚民化、日本人への同化でしたが、女性に対しては、より徹底した愚民化政策がとられました。総督府学務局にいた大野謙一という役人は、一九三一年にソウルで発行された「朝鮮教育問題管見」という本のなかで、つぎのようにのべています。「案ずるに朝鮮人の女子教育は男子教育に比して勝れども劣らぬ重要な意味がある。経済的融合と社会的融合とは植民政策の根幹であるけれども其の後者即ち社会感情の融合と謂うものの方が一層も数層も困難である。併しながら一旦成功すれば経済的融合よりも更に有力に社会の根幹を固めるセメントである。之れは何うしても婦人の感化と謂うことから這入って行くのが近道である。

略——感情的にして而して主我心自覚心の少ない婦人の方が遙かに男子に比較して感化し易いのは謂ふを俟たない。而して一旦感化した以上は更に之を改め難いのも事実である。而して女子が感化すれば男子は自ら感化せらる。斯くの如くにして底の底から叩いて行かなければ統治の根柢と謂ふものは真正に出来上るものではない。——略——従って先生なども用ゐ得られるだけ日本の婦人を用ゐて生徒が学校を出てからも自由に家庭に出入して永遠に風化の源泉と爲ることを期せねばならぬ。女子教育の意味も亦甚だ重要深遠なるものがあると信ずる。」

長い引用になりましたが、今の引用文にはすべて一字一字の右に○印がつけられているんです。つまり大野謙一も、この部分はとても重要である、みずから強調しているわけです。このように朝鮮女性を蔑視するかたわら「内鮮一体」化の手段として徹底的に教育していかなくては行けないということが強調されているわけですね。これはそっくりそのまま総督府の朝鮮の女子教育に対する基本姿勢だったわけなんです。そのことは女子は男子よりも修業年限が一年少なく、さらに朝鮮語と日本語の時間数も男子より少ないという、具体的なちがいであらわれています。表1は一九一一年に第一次教育令が発表されたときのものですが、一九二二年の第二次教育令においても、この二点だけは変わっていません。そのかわり女子の場合には、各学年とも裁縫や手芸に週十時間が割り当てられています。つまり女性にとっては、ごく初步的な読み書きができて、料理・裁縫

学校から朝鮮語を奪う

一九一九年の三・一独立運動以後、いつわりの文化政治の結果の一つとして、学校数が増えておりますが、それがそのまま朝鮮人にとって、教育の場が増えたことにはならなかったのです。たとえば表2の一九三五年現在の専門

表 (1)

普通学校 (授業時間数)

朝鮮語・漢文	日 本 語	学 年
6	10	1
6	10	2
5	10	3
5	10	4

高等普通学校 (授業時間数)

朝鮮語・漢文	日 本 語	学 年
4	8	1
4	8	2
3	7	3
3	7	4

女子高等普通学校 (授業時間数)

朝鮮語・漢文	日 本 語	学 年
2	6	1
2	6	2
2	6	3

学校以上の在学人数をみると、法学部を除いては朝鮮人学生より日本人学生の方が多かったわけですが、法学部に朝鮮人をたくさん入れたということは、植民地の統治行政のためには朝鮮人の下級官吏が必要であったためだろうと思います。また医学、薬学部にも朝鮮人学生が少なくないことは、機会あることに朝鮮人から経済的自立の道を導いた植民地政策のあらわれだとみることもできます。公立学校は日本人優先という不平等な政策をとっていましたが、表3をみると朝鮮人女子教育の中心的な場は私立学校であったことがわかります。また表4の一九三〇年度における日本への留学生数をみると、女性は全体の二割に満たぬ一七三名で、解放前のこの時代に留学生として学ぶことができたものは、ごく少数の選ばれた女性たちだったといえます。表5の学歴別人口をみると、一九四四年現在、学校の門を一度もくぐったことのないものは約二千万名に達しています。その半数以上は女性です。私どもの母親の世代には文盲が多いわけですが、それは朝鮮人としてさらに女性として二重の愚民化をしいられた結果であって、決して朝鮮人女性の人間としての能力の低さを意味するものではないことを心にためて頂きたいのです。

愚民化政策と日本人への同化政策とは表裏一体になっておりまして、一九三八年には朝鮮語を学校、官庁から追放し、かわりに日本語を「国語」として押しつけてきました。わずかに朝鮮語が命脈を保っていたのは、金日成將軍を中心とした抗日バルチザン闘争の根拠地であった中国との国境地帯にある遊撃地区内で行われていた教育だけと

いう状況でした。一九三九年には「創氏改名」「皇国臣民の誓詞」が要求されており、さらに各家庭での神棚の設置、女性に対するもんぺ着用などの強制などがありました。

「皇民」化運動の展開

このような権力側からの植民地化教育と平行して、民間側からの「皇民」化教育も行われており、その代表的な団体が緑旗連盟でした。この緑旗連盟は一九三三年に成立したファシズムの思想団体で、日本人と朝鮮人それぞれに皇国日本の臣民としての精神を浸透させることを目的としていました。緑旗連盟は、「日本の天皇を中心として、あらゆる民族、あらゆる文化を総合統一して発展せしめ、それによって世界人類の楽土を建設せん」という主旨のもとで、「人類の楽土建設、建国の理想実現、人格形成」という三つの綱領を掲げています。この綱領の生活化を重視して、「緑の生活運動」というものを提唱します。その実践要綱として、「国体の真義に基づく新日本建設への協力、緑旗精神に基いて朝鮮の家庭・朝鮮を変えていく」という二点があげられています。つまり「大東亜共栄圏」づくりと「内鮮一体」の徹底化です。緑旗研究所という機関もつていて、一九三八年にはそこから「日本精神と八紘一宇」という朝鮮語訳の本がでています。他に医院、薬局を営営して経済的な地盤を固めていきました。会員は約一千五百名位いたといわれ、壮年部、学生部、婦人部の三つに分かれていました。会長の津田栄はソウル帝大の教授で、総督府の視学委

員をも兼ねていました。一九三六年には機関誌として「緑旗」が発行されましたが、この編輯責任者は会長の実弟である津田剛でした。

津田節子のはたした役割

一九三四年には日本人女性だけを受け入れた清和女塾が設置されます。この女塾の職員構成をみると、塾長の津田よしえは津田栄の母親であり、塾監の津田節子は津田栄夫人というように、この緑旗連盟はまさに津田ファミリーによって運営されていたわけでした。津田節子は塾長になりました。設置当時、十一人の講師がいてそのうちの六人は須江愛子、大橋寿子ら女性でした。この塾は高等女学卒業程度を入学資格とする一年制の塾で、四月の入塾式は神宮で行なっていました。教科内容は修身、国体、茶道、料理、和裁、家事、音楽、習字、仏教、倫理等でした。1.国体のところをみると、国体研究の意義、2.天照大神の御神格、3.日本建国の理想、4.日本民族の成立がその内容になっています。特に茶道は日本精神のあらわれとして重視され、和服の着方、歩き方等が教えられました。

また「内鮮一体」は太い柱として貫かれておりまして、たとえば慶州を見学する場合でも、講師は朝鮮の歴史にふれることによって「内鮮一体」に役立ててほしいということをのべています。緑旗連盟はさらに一九三九年には農民塾も設置しています。これは、いわば朝鮮農民の「皇民」化の必要に迫られてできたものといえますが、その農民塾（瑞穂農民塾）の初代塾長は柳

沢七郎でした。清和女塾の塾生たちは月に一度、農業の手伝いに出かけ、そこで塾長の話を聞くことが時間割に組み込まれています。ですから柳沢七郎も清和女塾の講師として名を連ねています。この農民塾は一九四三年に国民総力連盟から「皇国」農民づくりに貢献したとして表彰されています。一九四三年には、清和女塾だけではなく、さらに徳和女塾が設置されています。このときの「清和徳和両女塾案内」には、「決戦下の皇国婦人育成道場」とはつきり銘打たれています。両女塾の指導科目をみると、皇民科、戦時家事科、仕奉科の三つに分かれていて、皇民科のところでは「半島に住む目ざめたる皇国婦人の役割をさとらしめ内鮮一体の実現のため努力せしめます」と記されています。仕奉科では、あらたに「皇民養成に関する仕奉」の項目が加わりまして、朝鮮人に日本語を教える「国語講習会」の指導のしかた、紙芝居を使つての生活改善運動のすすめ方という、朝鮮人女性への働きかけの具体的な方法が教えられています。このようにして両女塾の生徒たちは、卒業後は緑旗連盟婦人部の会員として活動するのですが、一番多かったのは「国語講習会」の講師だったようです。また緑旗連盟では「新女性」という雑誌を出すのですが、その編輯部にもこの塾の卒業生たちが、かなり多くいたようです。「新女性」は一九四一年六月にでたもので、朝鮮婦人を対象にした日本語の雑誌です。創刊号は「徴兵制と半島の母」の特載を行って、目次をみると「半島のお母さんに……津田節子」、皇軍はなぜ強いのか、「徴兵制実施までにかう改めた

日本女性の積極的な負担

日本人女性に対する教育方針は二つありまして、その第一は「家」を守る女性をつくるということです。つまり、古い日本の家族制度のもとでこそ、真の幸福な結婚生活が実現されるのだといながら、「三従の道」の礼讃をくり返しています。「緑旗」一九四三年一月号の「新しき三従の道」のなかでは、「我ら女も一億の赤子の一人であり、生活戦の戦士であり、かつ天皇に仕えまつる日本の家の一人として、天皇のみことかしこむ存在となりました。日本における三従の道は決して卑下と屈辱の道ではなく、光榮ある日本の女性の幸福の道であります。いとけなき時は親にしがたが、嫁しては夫にしたがひ、生老いて後は若き子に従つて、大君に奉仕し奉るといふのが、日本の女のあるべき姿なのであります。」

と書いています。このように封建道徳の「三従の道」を強調しながら、さらに日本の孝行というものは天皇に仕えまつること、忠義を尽すことであって、それが親のもっとも喜ぶことなのだといふ説いています。つまり子として親を敬ふことは、天皇を敬ぶことであるという仕組みにおいて天皇崇拝をうえつけているわけです。日本の家長制度によつて支えられた「家」が、日本の天皇制を支える一単位であったということが、この文章のなかにもはつきりと示されていて興味ぶかいものがあります。

もう一つの方針は、朝鮮人女性の「皇民」化は日本人女性の任務である、という考え方を徹底させていることです。い

「内鮮一体」は今の政局で第一の緊急事であり、それは国力の強化につながる。したがって自分たち日本人のひとりひとりが天皇の御心のように行動し、日本人としてのよい見本を示すことと朝鮮人を「皇国臣民」にしていこうという発想が土台になっています。一九四三年十月の婦人部例会において津田節子はつぎのように語っています。「半島に於ては先づ半島婦人を皇国臣民化することが戦力増強に最も大切であります。私達半島に住む内地人は一人々々が立派な皇国臣民となり、文化戦線の戦士として半島婦人の指導に、又それらの戦場に、敵国婦人に負けないやうに戦力増強の一員として、敵前上陸の戦士として働かねばなりません。」

また一九四三年二月に開かれた明治神宮国民錬成大会に、津田節子は代表の一人として参加しますが、その時の東京での印象を綴った「東京だより」が「緑旗」一九四三年二月号に載っています。それをみると、彼女は宮城の二重橋前に土下座して、つぎのように誓っています。

「拝んで拝んで、泣いて泣いて、しっかりいたしますとお誓ひいたしました。京城の同志の人々、あなたたちと共に、半島の方々を、正しい皇国臣民に育てるお仕事を、陛下の御心配のこの部分だけは守らせていただきますと祈りあげました。どうぞお互いに、よい同志になりあひましよう。」

次に朝鮮人女性に対しては、まず第一に、「内鮮一体」ということは朝鮮人が陛下の赤子となることであり、日本人になるこそが朝鮮人にとつての

新しい幸福の道だということを強調しています。ですから津田節子は朝鮮婦人に対して「朝鮮の婦人たちは今や欧米人を学ばなくてもよい時が来た。日本を眞剣に学んで下さい。あなた方が幸福になる道はこれです。」と断言しています。さらに朝鮮の母親に対してはわが子を日本軍のために喜んで出し出す母親になるようにとよびかけています。海軍特別志願兵制度が発表されたときには「少年をたたへる」という文章のなかで、つぎのようにいっています。これは、「緑旗」一九四三年六月号に発表されました。

「今やわが半島の青少年の前に、直接に天皇陛下の御橋としておつしする道が完全にひらけたのであります。——略——半島青少年のお母さんたちよ。どうか少年たちからその魂と、その情熱とを学んで下さい。そして又、お母さんたちもずん／＼新しく成長して、その正しい聡明さを以て愛する我が子を餵へあげて、我が皇国のみ橋として下さい。」

このようにして津田節子は、一九四五年まで実に十一年間にわたって「皇国」女性づくりに励んできたのです。植民地政策を推し進めてきたのは決して男性だけではなく、このような日本人女性もいたという事実を、朝鮮人、日本人それぞれの立場から深く考えていかなければいけないと思います。日本の女性史のなかで、過去の日本の旧植民地国に対する日本人女性の関わり方はすっぱり欠落してしまっていますが、その欠落部分を埋めていくためには、日本の女性が植民地政策にどのようにかかわっていったかの全体を明らかにすることは、大切な作業だと思います。

韓国女性が闘った百年の歴史

- 1876年 丙子修好条約（江華島条約）締結。日本と国交を開く。——鎖国から開港へ。だが近代化への歩みは、同時に列強の利益争奪の対象となり、日本への隷属化の過程をたどることであった。近代の女性運動はその矛盾の中で始まった。
- 1885年 プロテスタント婦人宣教師来韓。翌年スクラントン夫人梨花学堂を創設。
- 1886年 独立協会「独立新聞」発刊。女権の向上、女子教育の必要性を主張した。
- 1894年 東学運動おこる。東学の平等思想の中には女性尊重主義が含まれていたが、運動は弾圧される。甲午改革——再婚の許可、早婚廃止等が決められる。
- 1895年 乙未事変（閔妃殺害される）
- 1898年 女友会創立。キリスト教徒を中心に啓蒙的な役割を果たす。一夫一婦制の主張など。順成会、官立女学校の設置を訴える。
- 1905年 乙巳保護条約締結——女性の中では夫をいさめて断食し、辞任させたもの、慶事だと喜ぶ主人に憤って職をやめた家婢などがある。
- 1907年 国債補償運動（政府の日本からの借款を民衆の手で返そうとする運動）にあらゆる階層の女性たちが参加。
- 1910年 日韓併合。
- 1913年 松竹会（女性による独立運動の組織）結成。
- 1915年 東京女子留學生の会結成される。
- 1918年 総督府の土地調査事業始まる。
- 1919年 3・1独立運動に、女子学生、女教師あるいは妓生まで多くの女性が参加、殺害され投獄された者も多数あったが、このうち柳寛順（ユ・カンスン）は翌年10月獄死した。——3・1運動以後、国の内外で、大韓民国愛国婦人会など独立運動の団体が組織される。
- 1922年 朝鮮女子基督教青年会（YWCA）創立。
- 1923年 基督教女子節制会（WCTU）創立。国産品愛用運動起る。
- 1924年 朝鮮女性同友会（社会主義に立脚した民族運動をめざした最初の団体）創設。女子労働者への働きかけ等を行う。以後、中央女子青年同盟など、プロレタリア運動の立場に立つものが、二、三創設された。——20年代以降の女性運動の中では民族独立をめざす運動と女権拡張運動、女性への啓蒙活動は分ち難く結びついていた。
- 1927年 権友会創設——民族主義の系列の女性運動と社会主義の系列の運動がひとつとなり、協同の戦線をめざす。女性運動の分水嶺的な存在。全国に支部を組織する。光州学生事件。
- 1929年 文字普及運動に女子学生多数参加。

- 1931年 権友会、事実上解消。——1930年代以降、日帝の植民地政策が次第に強化されていく中で、文化運動の形での運動は、その後も辛うじて進められるが、戦争の激化とともに、そうした運動も困難となる。農村の生活改善運動に献身した若い女性の生涯を描いた小説「常緑樹」（沈薫）発表。
- 1935年 YWCA、節制会はそれぞれ日本 YWCA、日本基督教婦人矯風会の傘下に繰り入れられる。
- 1940年 ——愛国婦人会、国防婦人会への参加が強要される。以後、日帝末期の韓国の女性運動は弾圧によってほとんど活動停止状態におかれる。（その間多くの女性が、学徒動員、挺身隊の名のもとに日本の戦争遂行のため徴用され、ある者は慰安婦とされ、あるものは戦場に消えた。原爆により終生癒えぬ傷を負った者もいる）。
- 1945年 8・15解放 ——南北の分断の悲劇による政治的混乱の中で女性団体も政治性をもたざるを得なかったが1948年8月、南に政府樹立後、共産主義系列の婦人団体は非合法化される。
- 1950年 6・25動乱起る。
- 1961年 5・16軍事クーデター後、一旦すべての婦人団体は解散させられ、再登録する。
- 1973年 汎女性家族法改正促進会結成。
- 注：李兌栄「近代社会と女性」（シアルソリ誌1975年・7、8月号——76・3月号連載）李効再・金周淑「韓国女性の地位」梨大出版部による。

現在の状況

- ★女性人口 総人口33,460,000名のうち16,650,000名が女性。（男性より約170,000名少ない）——15歳以上の女性の中で既婚者が59.1%をしめる。
- ★平均の婚姻年齢（1970年）は、都市部では、25.6歳、農村23.1歳、平均24.2歳。
- ★14歳以上の女性人口のうち40.6%が経済活動に参加しているが、そのうち、農家の女性の生産活動に参加する比率が高く、農家女性の53.4%に比し、非農家女性の参加は31.4%。産業分野別でみると、一次産業53.8%、二次16.9%、三次29.3%で、農水産業とサービス業種に多く集中している。——日本の場合、48.3%の参加率（15歳以上）一。女性就業者の82.8%が18歳～29歳の間である。
- ★大学生中で女子学生は26.1%。
- 以上74年度統計、「韓国女性の地位」から。

チマ・チョゴリの誇り

その点をきちんとしない限り、日本の女性戦争によって被害を受けたという被害者意識だけが前面に押し出されて、女性であるけれども男性と同じように他民族の抑圧に荷担してきたという加害者としての自分・自分たちというものが現れてこないのではないかと、思います。

今まで一九四五年以前のことだけをみてきましたが、その当時とつながる現在の問題の一つとしてお話ししたいことがあります。女性史研究家の山崎朋子氏が「チマ・チョゴリの誇り」という文章を書いていました。エッセイ集「胸より胸へ」のなかに収められています。この文章は「わたしは、今年の正月から、朝鮮衣裳のチマ・チョゴリを着はじめた。チマ・チョゴリ姿で外出したのはまだ十回ほどにすぎないが、わたしは、日本の女性がひとりでも多く、チマ・チョゴリを着てみるようにすすめてほしい」と書き出されています。山崎朋子氏はこのなかで、日本人女性にチマ・チョゴリをすすめる根拠として三つの点をあげています。第一はチマ・チョゴリが美しいということ、第二はチマ・チョゴリを着て町を歩くと、「日本人の朝鮮人に対する差別意識」を「肌身で感ずることができ」ということ、第三は「朝鮮人にとっては、幾百幾千の言葉よりも、日本人女性が朝鮮女性に变身するという事実の方が、日本人へのかすかな信頼を抱くことになるのかもしれない」ということです。わたしはこれを読んで疑問を抱きましたし、こだわりを感じ

ずにはいらませんでした。その理由は、第二のところですが、チマ・チョゴリを着て町を歩いてみなければ日本人にとって、朝鮮人に対する差別と蔑視の冷たさが分らないのだからかという疑問です。同じ体験をしなければ他者の痛みが分らないということであれば、山崎流に考えれば、三十八年間の植民地時代に朝鮮人の味わった屈辱や苦しみを、日本人には到底分らないんじゃないですか。これは他者に対する思いやり、想像力の欠如につながっていると思います。第二に、日本人女性にチマ・チョゴリを着ることが朝鮮人に対する友情と信頼のあらわれだとは思えません。朝鮮人が、チマ・チョゴリを着た日本人として誰をまつ先に思うのかと問うてみると、それは伊藤博文夫人です。伊藤博文は朝鮮に統監府がおかれた時、最初の統監となった日本人で、朝鮮の植民地化の早い時期に登場した代表的な日本人の一人として、朝鮮民族の憎悪の対象になっていました。伊藤博文を射殺した安重根は、現在の朴政権のもとでも義士として賛えられています。その伊藤博文夫妻が、伊藤博文の方はパジ・チョゴリ姿で、夫人の方はチマ・チョゴリ姿で写した写真があります。その写真が朝鮮人の目はどう見えるかということですが、この伊藤博文夫妻の朝鮮服姿を、朝鮮人に対する友愛のあらわれと見る朝鮮人はいない筈です。わたくしは、この民族服姿を、さらにはわたくしたちの民族服姿までも奪って我が物顔をしている憎らしい姿に、憤りを感じただけです。先ほどお話しした緑旗連盟婦人部でも、日本人にチマ・チョゴリをすすめたことがあります。「緑旗」一九四〇

信頼を得るために

一九四五年以前の日本女性のチマ・チョゴリに対する態度と、山崎朋子氏の文章を切り離して考えることはできません。わたくしは、そこに日本人女性の他民族の民族衣裳に対する無神経の系譜の一つをみる思いがいたします。先日、ブック・デザイン・折久美子氏が「朝日新聞」にサリリーを着た経験を発表したところ、サリリーの作り方、着方の問い合わせが殺到したといいますが、この国の民族衣裳であれ、美しいものを美しいものとみることに異議はありません。けれど、日本人にとってサリリーを着ると、チマ・チョゴリを着るのとは、おのずから意味がちがうのではあませんか。抑圧、被抑圧の関係をもった国の民族衣裳を、どうし

て目先の変わったファッションを選ぶような感覚で手を通せるのだろうかという感じがします。日本人女性が、何のこだわりも感じずにチマ・チョゴリを着るということに、わたくしはこだわらずにはいられないのです。また、チマ・チョゴリを着た日本人女性に朝鮮人は日本人への信頼を抱くのではないかと、わたくしは山崎朋子氏の思い上がりを感じずにはいられません。山崎朋子氏が日本の女性を代表しているわけではないように、わたくしも決して朝鮮の女性を代表しているわけはありません。これは、あくまでもひとりの朝鮮人女性のひとつの意見にすぎませんので、みなさんは、この文章をどうお読みになったのか、ご意見をうかがっていただきたいと思います。異なった民族間の友情とか信頼は、相手の国の民族衣裳を着るとか着ないとかいう形式的なことではなくて、それだけが自分の問題、自国の問題を主体的につきつめ、取り組んでゆく中で、お互いの理解や信頼がつかわれていくのではないのでしょうか。朝鮮人であるためにみえなかったものを、日本人であるためにみえなかったものを、お互いに率直に指摘し合いながら、目を見開いてゆきたいと思っています。

（附記 この講演のあとで日本人の友人から岡部伊都子氏に「琉装とチマ・チョゴリ」（小さなこたまり）所収、一九七七年四月、創元社刊）という文章があることを知らされた。そこでは、日本人女性がチマ・チョゴリを着ることへの気兼ねが語られていて、朝鮮人女性によせる心あたたまるメッセージとなつていくことを、ここに示しておきたい。）

アジアとの出会い方

鶴見 良行

アジアの発見

今日、私がお話しすることは二つあります。第一はアジアを見るとか、出会うとかいう場合に私達の中に或種の歪みがあると思います。まずそのことに触れたいと思います。

皆さんの中にも東南アジアへ行っただ方もいると思いますが、そういう場合に非常に良心的に考えると、たとえば闘う女達とか、労働者、人民と連帯するとかいう思考方法でアジアを見るときに、どちらかといえばそこへ行つて固定しているところの対象を外側から観察しがちです。極端にいえば動物園に行つてオリの外から動物を眺めて、ああ、パンダというのはこういう物であるか、と私は一大発見をしたという風なタイプの見方というものがあつて、私は、それでアジアの人達は貧しいとか、女性には日本より解放されているとか、これは確かにその通りです。東南アジアに見る限り、東南アジアの女性たちの方が日本の女性達よりも社会的に地位は高いし社会活動に対する参加度がずっと大きい。つまりそのようなことも実は発見するわけです。また、その対極としてキーセン観光があります。単純にその一種の自分の欲望なり消費の対象にしてしまうような交り方も一つあります。結論をいいますと、見るという行為は、見られるという行為と、見る眼差は、私達に新しい発見をもたらすが、自分自身もまた変わるわけです。従つて、見る見られる関係が必ず相互変革の関係であつて、その相互変革というものを、私達自身が、自主的に管理するようなルール作りをしなければならぬと思います。

バリ島での文化破壊

インドネシアにバリ島という島があります。たいへん観光地として有名なところで、インドネシアもそれを観光のセールスポイントにしています。何故バリが観光地として有名になったかといふと、インドネシアは一四世紀から一五世紀にかけて、回教文化が入ってくるが、その前はインド文化つまりヒンズー教文化であつたわけですから、ヒンズー教文化の上に回教文化がのつてくるのです。その中で、バリ島だけはヒンズー文化そのままで残つた。

したがって、多くの人々がその信仰によつて現在も生きています。ですから多くのヒンズー文化の仏像彫刻とか伝統が残つています。バリ島もその一つです。インドネシアは戦前までオランダの植民地で蘭領東インドと呼ばれていて、そのころからすでにバリは、もう観光地地だったのです。ですからインドネシアにとっては大変重要な所であるわけです。では私がなにもゆえにバリに惹かれるかといふと、バリの飛行場の近くに、クタビーチという海岸があつて、そこは戸数四百戸ぐらいの漁村なのです。ところがそこはヒンズー達によつて完全に占領されているのです。そこにはヒンズー達が泊る安いバンガロー風ホテルが二百軒もあり、又最近ではその中に一種の階級分化が出て来ていて、高級バンガローが数は少ないが、日本の文化、日本史というものをどこから眺めるか、批判するなり、比較するなり原点をどこに取るかといふことですが、一番の主流は欧米にとる、欧米中心主義です。見方だけであつたし、今もつてそうなのです。二つ目の考え方は、これより小さな流れですが、中国、朝鮮というケースで眺める方法です。日本は欧米を完全に受け入れることによって、近代化を成し遂げたけれども、中国というものは、むしろ中国そのものの長い文化の枠組みの中で、欧米を拒否することによって、その抵抗の中でバイタリティーを獲得して近代化を成し遂げてきました。いづれにせよ、この二つの考え方が、日本をめぐむ比較のあり方としてあります。私は第三番目に東南アジアを入れたい。なぜ東南アジアかと言うと、際立つた特色があるのです。それは東南アジアというものは、原点つまり核がない。枠組みがない。中国も変わつていっています。政治、文化の枠組みがありません。伝統のフィルターがありません。フィルター自体も変わるが、内容に比べて変わりはほとんど少ないのです。原点というものは、人々の考え方の中にある所の一種の姿勢の問題なのですが、先に述べた二つの考え方は、固い核を持つた文化と日本を比較するわけですから、東南アジアには、民族としての強力な厚みのある伝統を欠いている国がある。日本の場合は明治維新、中国の場合は革命です。それぞれ伝統の枠組みがあつて祖先返りをしています。フィリピンのような国では、伝統的な枠組みの中で、社会を変革することが出来ないのですから前に進んでそれを

いが出現ははじめています。又その他に、安くておいしいレストランもあるのです。ところがそこに住んでいる人は、そういう物は食べないのです。ですからその村落の構造そのものが徐々に変わつて来ているのです。

おみやげ屋もその一例です。おみやげ屋で売っているものは、だいたい三種類ぐらゐります。一つは、ヒンズーの彫刻とか絵画（プリント）など伝統的モチーフを商業化したものです。彫刻の木材は輸入しているのです。以前はバリにもあつたのでしようけれども、取りつくしてなくなつてしまつたからだと思います。彫刻師は昔は独立職人だつたが、自前で材料を輸入することができなくなつて、問屋の下請けになつてしまつた。観光産業そのものが職人の生活を変えていつています。

それから革製品は最近商品化されて来たもので、原料を輸入してこれもおみやげ用に売っているのです。また衣類も革製品と同様のものです。ですから彫刻も革も衣類のシャツ等も完全に輸出用のものなのです。また、原産地も実際にはバリの伝統文化には、あまり縁がないのです。

いづれにせよ、クタビーチは、ヒンズー達によつて完全に植民地にされていくわけです。いくらヒンズー達が民衆志向だからといって、ほんとうに民衆との間の交流ができていくかといふと、それはもうまったくできていないのです。バリ島のヒンズー植民地は、外部の人間の（見る）行為が（見られる）側を変えていつている典型的な例です。動物園の檻の中のライオンは、もはやアフリカの大草原のライオンではない。もっと一般化すれば、アジアはやはり

見られることによつて変わるのです。もう一つの例もお話したいと思います。

日本青年の証言

CTTS進出をねらう日本

パリの隣に、ロンボクという島があつて、ここにも最近、パリのヒッピー達が段々入りこんでいるのです。そこへ行った時のことですが、この島には日本の企業がCTTS（石油備蓄基地）を作る話が出ていて、また実際に現地に測量班なども来ています。そこでホテルのマネジャーに、CTTSを作る場所はどこですかと聞くと、マネジャーは日本の雑誌がはり付けてある物を見せたのです。それにはロンボク会報と印刷されていた。つまり日本にロンボク会というのがある、その会報なのです。七二年が第一号でいままで第三号まで出ています。で、これはロンボク会というものはどういう会かといふと、戦争中にロンボクに駐留していた軍人さんとか、農業関係の技師とかそういう人達が、ロンボク恋しい、なつかしいあまりに、ロンボク会というものを結成して、そこが会報を作つて出しているのです。そのロンボク会というのが、同時にロンボク経済開発研究会を作っているのです。そのようなことを見ますと、日本は、アジアを占領したりアジアを侵略するものではない、戦中に得たところの経験そのものを批判的に、摂取継承するのではなくむしろ現在の経済的な進出に、そのまま直接に継承されているようなところがある。そこに現在の日本のアジアへのかわりの手掛りがあると思ひます。

枠組のない東南アジア

第二は、なぜ私は東南アジアを中心としてながめるか、ということですが、日本の近代文化、明治維新から見

創りだしてゆくしかない。西洋と日本、中国と日本を比較する軸に、東南アジアと日本という三本の軸を創りたい。以上が私が話したかった二つのポイントです。一つは、見ること、それ自体が相手を変えていくのだということ。そこにおいて、我々が自覚的でないといけないし、自制的でなければいけないということです。もう一つは、なぜ東南アジアなのか。それは、東南アジアには、中核になる枠組みと、その面から、日本文化を見返すと、いつたという風に見えてくるか、といふことです。アジア勉強会をやつていく上での日本近代史の問い直しといふことです。

ヘレラ夫人に支援を！

トリニダード・ヘレラというひとりの女性が、国際的な注目を集めています。といふ彼女がイメルダ・マルコスと並ぶ才色兼備の女性だからではありません。マニラにある東洋最大のスラム地域トンドの住民たちの先頭に立ち、マルコス独裁政権を相手に怖れすることなく立ち向かう闘士として、ヘレラの名はフィリピン民衆の間に伝わっているのです。マニラ知事も兼任するイメルダの日本の漁業資本と結託したスラム一掃作戦に断固として反対し、地元漁民、スラム住民の仕事と家を守るために戒厳令下にもかかわらず、デモを組織し、集会で訴え続ける彼女を、マルコス政権は再度にわたる逮捕したばかりか、最近では乳房その他に電気ショックを加えるという拷問を加えました。国際世論に押され、政府は一時にヘレラを釈放しましたが、今なお厳しい監視下におかれている女性政治犯のシンボルともいふべきヘレラ夫人を支援し、拷問に抗議する運動を、私たちの手で始めたいと思ひます。

資料紹介 韓国と韓国女性を知るために

題名	作者・訳者	出版社
韓国女性史Ⅰ・Ⅱ	大沢和歌子	梨花大出版部(ソウル)
韓国女性運動史	花七郎	高麗書林
朝鮮女俗考	沢七郎	京大出版部(ソウル)
韓国文化史大系Ⅳ(韓国女俗史)	能東股	平凡書店
朝鮮独立運動血史Ⅰ・Ⅱ	李朴朴	青木書店
日本帝国主義の朝鮮支配 上・下	朴朴	大平出版
義兵闘争から三・一独立運動へ	マッケンシ	民衆書館(ソウル)
日帝下の民族運動史(韓国女性の社会的地位)	崔永福	三一新人物往来社
天皇の軍隊と朝鮮人慰安婦	金一	新エドワーズ
朝鮮人慰安婦と日本人	田清夏	双葉社
従軍慰安婦悲史	田清夏	キョーセン
従軍慰安婦(正・続)	田清夏	光文社
性侵略を告発する	角圭子	サイマル出版会
朝鮮の女	高峻石	田畑書店
アリランの女	金賛汀・方鮮姫	田畑書店
ある朝鮮女性革命家の回想	王昭	文閣(ソウル)
風の慟哭	柳順順	朝鮮都省
女教師のうた	柳順順	東三講
身世打鈴	柳順順	築創
朝鮮・ヒロシマ・半日本人	柳順順	岩波
朝鮮のこころ	柳順順	サイマル出版
生きるこころの意味	柳順順	中央公論
在日朝鮮人史 上・下	柳順順	みすず
韓国からの通信(正・続)	柳順順	朝新
金芝河作品集	柳順順	新サ
アリランの歌	柳順順	新サ
ある韓国人の教会史	柳順順	新サ
死ぬまでこの歩みで	柳順順	新サ
石枕 上・下	柳順順	新サ
日本統治下の朝鮮	柳順順	新サ
日韓併合小史	柳順順	新サ
日本人と韓国	柳順順	新サ
さらされるものとさらすものと	柳順順	新サ

励ましと抗議を!

民主救国宣言事件被告家族、拘束学生に家族へ励ましの便りを出しましょう。短い文面、政治的な内容にふれないものであれば手許に届くようです。できれば英語か韓国語で。朴大統領宛には拘束人士の釈放を、日本外務省には対韓政策の変更を要求しましょう。葉書(航空便)は七〇円です。

- ★ 抗議先 大韓民国서울特別市鍾路区世宗路一青瓦台 朴正熙 大統領閣下
- ★ 東京都千代田区霞ヶ関二二二一 外務省 外務大臣 鳩山威一郎殿
- ★ 大韓民国서울特別市鍾路区蓮池洞一三六四六 基督教教会館 人権委員会
- ★ 激励先 家族へ励ましの葉書を

ひろば

七四年八月から始めた「アジアの女たちの会」をたんに月に一回集まっていたり活動をしてる人たちからお話を聞くだけの会にとどめるのではなく、もう一歩つぎ進んだものにし、お互いの責任を明確にするため、会員組織とすることになりました。そうして、何を目標とするか、私たちの考え方を明らかにするアビールを出し、年数回機関誌を出すことにしました。

日頃「戦争の犠牲となった日本の女性」などと被害者の面ばかりを強調している「著名女性」に私は憤慨を覚えておりました。戦争に協力したことは事実なのですからその罪を罪として自覚することから真に女が自立することができるのだと思います。戦後生まれの私がこのようなことを言うのは「生意気」と思われるかもしれませんが宣言を拝見してうれしく思ったので書いてみました。

今日の日韓関係はますます緊張しつつあります。持続したばかり強い活動の期待します。頑張ってください。飯田勉(岡山市) 竹井京子(東京・港区)

はじめてお便りを差上げます。私新潟県の農村に住む年配の老婆です。婦人の解放が女のみでなしとげられるものでないこと、一國だけの女だけでなく、ほんの少しの地位の向上さえも不可能であることとをしみじみと感じ、アジアの女たちの会」として新しい世界的視野で出発されることに敬意を表します。南風が北風を圧する時代が二十一世紀には来なくてはならぬと思っております。

小川ヨキ(71才・新潟県) 私には子ども二人を保育園にかよわせ、労働組合の書記として、主に和文タイピストとして働いてます。アジアと女性解放について、常に私の中にあるテーマです。月に何度かなら東京までもでかけようという気になった自分を楽しみも感じております。

森岡芳枝(横浜市) 私たちのまわりには目を大きく見開かなければそのままだとされてしまうことが多すぎます。しかもぜったい許されないとが平然とそのままにされていくと思ひます。アジアに視点をすえ、自分の中の「アジア」をみつめてみたいと思ひ入会します。

手塚洋子(東京・板橋区) 未来四月号による、アジアと女性解放についての松井やよりさんの訴えを何回も熟読させて頂きました。私も男性のひとりとして、またアジア人のひとり、日本人のひとりとして、この切なる訴えを痛切に感じさせていた頂きました。協力会員として何卒よろしく。

堀原幸雄(加西市) 常日頃から東南アジアに関心をもち、そのために何かと研究資料を集めています。みなさまの「動き」は新しい視覚と問題提起をしてくれるでしょう。

又吉盛清(沖縄県浦添市)

女性解放とは何か

——女たちの団結は力強く国境を越える——
松井 やより
女性解放の問題を公害・福祉・技術・マスコミなど、社会との関係でとらえる。また先進諸国の女たちの思想を伝えるとともに、第三世界の女たちの苦しみと闘いに共感をよせる真摯な報告書である。
¥1,200
東京都文京区小石川3-7 振替 東京 87385 未来社

愛と激動

時代を生きた女たち
女性解放とコミュニケーション「新しい地平」
資本主義社会が矛盾を露呈している激動の二〇世紀。解放の道程のなかで、女がどのように歴史をかき、生きてきたかを考えるため開かれた連続セミナーの記録をまとめたもの。
定価一、二〇〇円

朝鮮の抵抗文学

冬の時代の証言
旧日本帝国主義の植民地下にあった朝鮮において、弾圧にめげず、民族の抵抗の心を様々な作品にたくして表現していった朝鮮文学の伝統を体系的にまとめあげたもの。現代韓国の詩人金芝河の作品を生み出す朝鮮抵抗文学の土壌が明らかにされている。金学録・編訳・定価二〇〇円

韓国四月革命

民族統一への序曲
統一朝鮮をめざす韓国民衆の闘いの先頭に立つた六〇年四月の学生決起は、李独裁打倒に勝利し、現朴政権下の民主化闘争に受けつがれ、発展させられている。
本書は、東亜日報連載の四月革命のドキュメント、座談会、宣言文、手記を収録。韓国四月革命刊行委員会・編訳・定価一、二〇〇円
東京都港区東麻布一の二三の五 電話(03)六六六三 振替東京三三三六 柘植書房

金芝河+富山妙子詩画集

鄭敬謨訳
付 レコード
「しばられた手の祈り」
演奏・鄭敬謨・林光
黒沼ユリ子
¥3,800
土曜美術社
東京都新宿区新宿1-5-12 明和ビル1F

性の弁証法

—女性解放革命の場合—
シュラミス・ファイアストーン 林弘子訳
現代における男性と女性という性の役割の崩壊は、究極的には政治的な問題である。数千年の歴史を通じて堅固なものにされてきた男性の支配は、闘争なしになくせるものではない。
評論社
東京都千代田区神田神保町2-16 振替 東京-7294

日本人と韓国人

鄭敬謨評論集 ¥980
韓国民衆と日本 鄭敬謨 ¥1,200
韓国のきびしい現実を凝視し、民衆の解放への道を模索する著者の痛切な祈りは、日本人の心を深くえぐる。
東京都千代田区丸の内3-3-1 振替番号 6-151643 新人物往来社

あなたも会員に!!

友人もさそって!!

会費 年間 千円(但し、会を
ささるために月一口千円の維持
会員をつります。)

申込み方法、大和銀行又は、
五〇円切手で、

衆議院支店普通預金
「アジアの女たちの会」
No.229364

三月に「私たちの宣言」を出し
て以来、めまぐるしく日が過ぎた。
女大もすわりきれないほどの人
全国からの問い合わせ……。責任
を感じつつ長い活動への一歩を踏
み出した感じ。多彩な人々が集ま
って、創刊号がうみ出された。み

んなの力に頼もしさを感ずつ。
(湯浅れい・鍼灸学生)
戦いの中でめざめ、成長して行
った韓国女性たちの姿が、私た
ちに示してくれるものは、戦う勇
気でしょうね日本の私たちもアジ
アへの抑圧に苛まれる自分たちの
国への新たな戦いに立ちあがる時
が来ている。 (山口 明子
キリスト教団職員)

多くの人に知ってもらいたいこ
とがあり過ぎて、小さな文字を詰
め込んだ。読みづらくてすみませ
ん。それでもあふれてページをふ
やしてしまつた。送料のことを考
えたと頭が痛い。次号はもっと読
みやすくします。

電卓片手にがんばるSさんの下
請けで原稿の整理を手伝いました。
このテの発行というものは、消耗す
るんですよ。この機関誌が、よ
り多くの人の手を得て発展し、言

論の自由を守って良心の声を叫び
続けてほしいと思います。

(編集者・竹林孝枝)

性侵略の根にある日本人の美意識
、西洋中心の美の価値観につい
て、一緒に考えてみませんか。九
月より「解放の美学(美の意識革
命)」について考えるグループを出
発します。志のある方はご参加く
ださい。 (富山妙子・画家)

アジアにおける植民地支配と民
族解放運動の年表と年次別カード
を作ってみましたと考えています。
夏休みのシーズンを迎えますが、
何人かで分担して、共同作業をす
るというのはいかがでしょうか。

(安江とも子・編集者)
マレーシアのベナン島。ここに
も日系企業の進出ははじまらな
い。見学した東レ工場のビジネス
マン氏「もうけなければ、もうけ
なければ」を連発。女たちの賃金
はアイスクリーム一杯分以下。公

害タレ流して近くの漁村は被害
こんな工場そのままだよおいて
何がアジアの女の連帯か、ガンバ
ラナクチャと思いつながら帰国しま
した。

(松井やより・新聞記者)
英文創刊号をひとあし先につくり
ました。ベナンの「アジア女性フ
ォーラム」に参加したアジア十四
ヶ国の女性たちに配り、注目され
ました。アジアの女のたまたかいを
広く世界に伝えるためにご利用下
さい。一部二百円です。
(加地永都子・AMPPO編集部)
あわただしい日々でした。会員
は二ヶ月で百五十名を越えました。
東京では女大の講座やいろいろな
グループの企画が始まりました
が、直接参加できない地方の会員
の方たちの資料になればとの思い
をこめて……。批判や感想、お寄
せ下さい。
(五島昌子・公務員)

女大学 アジアと女性解放 第1期 4月~7月

- 6月15日(水) 性侵略—この現実
松井やより・加地永都子
7月20日(水) 在日アジア人女性たちと
いまアジアで……
8月下旬 合宿 定員30名(会員に限る)
アジアの女の連帯をどうつくるか

9月より女大学第2期が始まります

- *毎月 第三水曜日 午後6時半
*会場 渋谷勤労福祉会館(パルコ前)
*参加費 300円
*問合先 508-7070(昼間のみ)

アジアの女たちの会 テーマ別グループ

各グループが資料集め、研究、調査、活動、
あるいは価値観の変革などを目的とします。

- * インドネシア研究……内海愛子
- * 国籍法改正……安江とも子
- * 解放の美学……富山妙子
- * 経済侵略……松井やより
- * 性侵略……山口明子
- * 人権・政治犯……加地永都子
- * 連帯活動……湯浅れい
- * 機関誌担当……須田幸子
- * 資料収集……富沢由子

ご希望のグループに参加ください。

しばられた手の祈り 幻燈作品 火種プロ製作



金芝河の詩を主題として
絵と音楽による
連帯のメッセージ

上映時間 40分 集会などでご利用ください。
★販売 スライド・テープ付 20,000円
★貸出し料 8,000円
制作スタッフ/原作・金芝河/訳・鄭敬順/企画石版画・富山妙子/作曲・朴炳圭・林光/バイオリン黒沼ユリ子/ピアノ林光・高橋悠治/歌・鄭敬順/詩朗読・伊藤悠一/ナレーター林洋子/撮影・本橋成一・江西浩一/編集・土本典昭・小池征人・前田勝弘

《火種プロダクション》・〒171 東京都豊島区池袋3-1555富山方
《ふいごの会》上映の申込先 TEL9時~4時迄0422(44)5883 篠塚方

韓国民主化闘争資料集

1973~76年 韓国問題キリスト者緊急会議編

¥1,600

死ぬまでこの歩みで

成錫憲 著

韓国の民主化闘争の象徴である成錫憲氏の自伝

¥1,400

東京都新宿区小川町3-1 新教出版社
振替・東京9991